

**令和元年度 野田市郷土博物館及び野田市市民会館
指定管理者 管理運営状況調書**

担当課 生涯学習課

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
利用者の平等利用が確保されること	①利用者の平等利用確保への取組	B	B	
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	①施設の利用促進の取組状況	B	B	
	②歴史、文化等に係る調査研究、資料の整備及び市民への情報提供への取組状況	B	B	
	③常設展・企画展・特別展の実施状況	B	B	
	④キャリアデザインに関する情報収集及び提供への取組状況	B	B	
	⑤キャリアデザイン支援のための具体的な事業の実施状況	B	B	
	⑥利用者及び利用団体のニーズの把握及びその反映の状況	B	B	
	⑦市民参加の取組状況	B	B	
	⑧自主事業の実施状況	C	C	寺子屋講座について、4月から6月まで開催できなかった。7月からは毎月1回開催している。
個人情報の適切な保護が図られていること	①個人情報保護のための取組	B	B	
緊急時の危機管理体制が確立されていること	①緊急時の危機管理への取組	B	B	
	②利用者の要望や苦情への対応状況	B	B	
現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること	①現金の取扱い等に関する経理処理の状況	B	B	

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理にかかる収支見込	B	B	
	②管理経費縮減のための取組状況	B	B	
公契約条例に基づく賃金の確保		B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際しての地元業者への配慮	①地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	①人員配置	B	B	
	②職員の指揮監督・管理体制	B	B	
	③人材育成への取組状況	B	B	
<p>総合所見</p> <p>前指定管理者からの事務の引継が適切に行われており、指定管理の業務に係る仕様書の要求水準に基づき、適正に管理業務がなされている。</p> <p>12月までの郷土博物館の入館者数は24,185人で前年同期間の25,700人の94%であり、市民会館の入館者数は9,948人で前年同期間の10,615人に対し94%である。郷土博物館については、9月以降の入館者数が前年度比57%と減っている。これは、特別展の内容が多くの方の興味を引くものではなかったため及び9月から「もの知りしょうゆ館」が休館となったため野田を訪問する団体客が減少しているためであると考えられる。市民会館については、利用者数は減っているものの12月までの利用料金は1,755,070円であり、前年同期間の1,599,640円に対して109.7%となっている。これは、藤の間、菊の間に空調設備を設置したことによって夏季の稼働率が上昇したため及び市外のコスプレ撮影者による利用のためである。引き続き施設の利用促進を図るよう期待する。</p> <p>また、市民のキャリアデザインの支援について、市民参加型の企画展開催や、寺子屋講座等のキャリアデザイン事業など、郷土博物館及び市民会館の役割が十分に認識され、施設の活用が効果的に行われている。地域づくりネットワークの構築については、昨年度からの流れを引き継ぎ、参加施設との連絡会を行っており、今年度中に作成予定である冊子又はマップの内容について意見交換を行っている。</p> <p>特別展・企画展・常設展の実施状況について、企画展「日本刀～古刀から現代刀まで～」は、期間中の4月、5月の入館者数が月当たりで過去最大及び2番目を記録するなど、大変好評であった。また、常設展においては、野田もの知り検定企画実行委員会からの提案を受け、タッチパネル式の常設展クイズ設置を行っている。</p> <p>しかし、自主事業の実施状況では、寺子屋講座について、4月から6月まで開催できず、今年度は9回とする見込であり年間12回開催の計画達成見込がないことから、評価をCとした。7月以降は毎月1回開催できており、今後の活動に期待する。</p> <p>指定管理者には、引き続き、利用者のサービス向上に努めてもらいたい。</p>				

評価基準	評価項目	指定管理者 自己評価	担当課評価	特記事項
<p>なお、1月19日に担当課による施設点検を行った結果、おおむね危険箇所はなかったが、業務報告にも記載のとおり、市民会館大玄関前赤松が台風の影響により亀裂が生じ、樹勢が衰えてきており枯死する恐れがある。指定管理者が樹木診断および薬剤注入を行い、生涯学習課において松を支えるための補強工事を行う予定である。</p>				